黒毛和種　繁殖雌牛　栄養管理プログラム

～　生産性・繁殖成績を高めるために　～

作成　：　釧路農業改良普及センター
協力　：　釧路総合振興局
釧路肉牛振興協議会
釧路農業協同組合連合会

			分娩前		分娩	分娩後				
			2カ月	1カ月		1カ月	2カ月	3カ月	4カ月	5カ月	6カ月～
							発情確認・授精・妊娠鑑定時期 ◎初回授精60日以内が目標				
飼料給与	配合飼料 （和牛繁殖用）	自然ほ乳 人工ほ乳	1～2kg			2～3kg	2～2．5kg	1～2kg			
			★給与する粗飼料は分析結果や母牛の栄養度、泌乳量(子牛の吸付具合)を確認しながら給与量を決める ★未経産、初産牛、2産牛は、発育のための栄養も考慮して、分娩前、分娩後、離乳後の配合飼料の増給を検討する								
	粗飼料（乾草）	自然ほ乳 人工ほ乳	良品質　6～8kg			良品質　8kg			並品質		最低6～8kg （ただし、良品質給与の場合は過肥に注意！）
			★粗飼料は飼料分析を実施し、栄養不足や過肥にならないよう品質によって使い分けをする ★放牧期や粗飼料が良質な時は、牛の栄養状態を常に確認し、過肥にならないよう注意する								
	ミネラル	自然ほ乳 人工ほ乳	50g			100g					
			★給与するミネラル（リンカル剤など）は、マグネシウムを含む製品が望ましい ★鉱塩は舎飼い・放牧問わず設置する								
	ビタミン （AD3Eなど）	自然ほ乳 人工ほ乳		●	●	←……	●	……→			
			★分娩10日前と分娩直後に給与、分娩後は毛づや等で適宜給与 ★他の添加剤を給与している場合は、過剰投与予防のため獣医師に相談のこと								
疾病対策	牛下痢5種混合不活化ワクチン	初産牛	●	●		初産牛は分娩予定日の6週間前と2週間前に各1回接種(合計2回)					
		経産牛		●		接種初年目は初産牛と同じ、2年目以降は分娩予定日の2週間前に1回のみ接種					
	呼吸器系6種混合不活化ワクチン	初産牛	●	●		初産牛は分娩予定日の6週間前と2週間前に各1回接種(合計2回)					
		経産牛		●		接種初年目は初産牛と同じ、2年目以降は分娩予定日の2週間前に1回のみ接種					
	駆虫剤			●		分娩予定日の1ヵ月～2週間前（内部寄生虫にはイベルメクチン製剤、外部寄生虫にはペルタッグなど）					

（十勝農業改良普及センター調査研究資料参照）

◎飼養環境の確認を行う　＝　飼槽の幅、水槽、牛群分け、分娩房など繁殖雌牛にストレスとなっていないか確認

◎分娩後は、子牛の生時体重を測定する　＝　体重計がない時は、胸囲から体重を換算する

表　子牛の胸囲と体重換算表　（道総研畜産試験場成績）

胸囲(cm)	70	71	72	73	74	75	76	77	78
オス体重(kg)	28.9	30.0	31.3	32.5	33.8	35.2	36.5	38.0	39.4
メス体重(kg)	28.3	29.5	30.7	31.9	33.2	34.5	35.9	37.2	38.7

目標胸囲　　オス：75cm以上　　メス：72cm以上

◎繁殖障害の早期発見

・分娩後60日を経過して、発情兆候が現れない時は獣医師に診断を依頼する

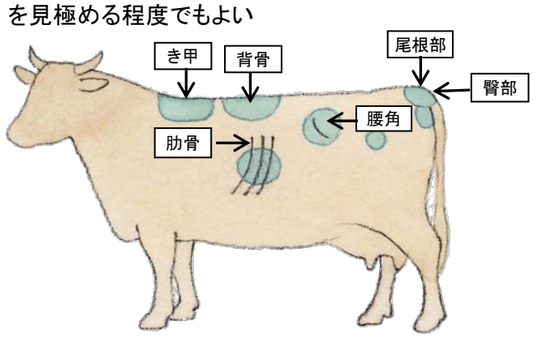
◎繁殖記録の記帳

・個体の状態を一目で判るように整理が必要である。淘汰・更新の判断にも活用できる

◎　栄養度の判定（見方）

・定期的に栄養度を観察する時間を確保する

・栄養度の判断は6部位の平均で行うが、難しい場合は「痩せてきた」、「太ってきた」、「変わらない」を見極める程度でもよい



- 和牛の栄養度は6部位で判定する
- 栄養度は9段階で判定する
- 繁殖性の観点からは、4～6の範囲が望ましい

（平成29年度釧路総合振興局地域政策推進事業）